



ウェルビー



You Tube
はじめました!



YouTube

ADL 室って
どんな部屋?

紀和病院公式チャンネル リハビリテーション部

上肢ロボット
療法とは?



随時更新

リハビリテーション室の設備やリハビリ機器の紹介、養成校の実習生に向けた案内など、オススメ情報が満載のチャンネルです。
紀和病院ホームページからも YouTube がご覧いただけますので、ご視聴とチャンネル登録よろしくお願します!

視聴はコチラから



2021 新年のあいさつ

昨年 11 月 21 日、院長の西口孝が 73 歳の生涯を閉じられました。心より哀悼の意を表しますと共に、8 年間にわたって当院院長職を立派に勤め上げてくださったことに深く感謝いたします。



昨年は新型コロナウイルスに振り回され続けた一年でした。密閉、密接、密集の 3 密を避けることが大切だとされ、人口の集中する大都市型の生活パターンに疑問が投げかけられました。一昨年は夏の異常高温や、台風のもたらした風水害の多発があり、地球温暖化が大きな問題と考えられ、その原因として化石燃料の大量消費が問題とされました。大量のプラスチックによる海洋汚染も深刻になっています。その他様々な問題において、今のままのやり方で将来があるのか。子供たちに豊かな地球を残していけるのか考えさせられることが多くあります。そんな中で、SDGs という言葉が話題になっています。2015 年に国連で定められたもので Sustainable Development Goals 日本語では持続可能な開発目標と訳されます。SDGs は 17 項目にわたる問題について目標解決していきましょうと提案しています。たとえば 7 項目にはエネルギー問題があり、また 13 項目の気候変動問題などは地球温暖化に対して少しでも早く対応すべき問題です。菅政権に変わって、日本でも 2050 年までに CO2 排出量ゼロを唱えるようになりました。17 項目の中には、働き方にも触れており、また男女の平等、すべての差別の廃止も含まれています。将来につないでいくという意味で、持続可能性（サステナビリティ）は、南労会紀和病院グループについても言えることです。この地域に根付いてこれまで行ってきた医療看護介護を、引き続いて行っていくには、継続した人材の供給、育成が必要です。また、地域医療の基盤たる地域の活性化も必要で、少子高齢化に向けた対策を練ると共に、少子化を防ぐ手立ても考えるべきだと思います。

今年は、私たちが次の世代にいかにか素晴らしいものを引き継いでいか、サステナビリティを真剣に考える年にしたいと思います。

理事長 佐藤 雅司

令和三年、年頭に想う



昨年初めに中国・武漢市から起こった新型コロナウイルス COVID-19 の感染はまたたく間に世界中に広がった。12 月 22 日の時点で、日本での感染者 201901 人、累計の死亡者 3012 人なので、死亡率は 1.5%となる。2018 年度の季節性インフルエンザによる死亡が 3325 人で、合併症も含めて 1 万人くらいがインフルエンザで亡くなったことになる。重症度について今回の新型コロナウイルスとの単純な比較はできないのであるが、新型コロナウイルスの危険度や感染力を考慮すると、今年もまだコロナ禍は収まりそうもないだろう。緊急事態宣言時は「オウチに居ようよ」と叫ばれて、街中から人跡が消えたのであるが、その後は政府が「旅行に行こうよ」キャンペーンで、緊急事態のときよりも多大の感染者、死者となっている。旅行や買い物をしたけれどコロナも怖いという「生命か自由か」の命題は、ときの政策と受け止める市民との間で揺れ動いている。

橋本市のような地域では、大都市の繁華街のような密集地もないことが幸いして、新型コロナウイルスの大規模な感染は防ぎ得ている。山上の高野山では、極度の自由が制限された僧侶たちがひたすら念仏を唱えることで平穏が保たれている。疫病が流行った平安期に、大原で隠棲し「方丈記」を著わした鴨長明のように、田舎にこもって自給自足の生活をするのが長命の秘訣かもしれない。

院長 近藤 孝

脊椎内視鏡手術において 4,400 例以上の実績をもつ河合将紀医師を新たに迎え、
せぼねの低侵襲手術に特化したセンターを開設しました

1 2021年
月 開設

脊椎内視鏡手術センター



坐骨神経痛
手足のしびれ
背部～上肢痛
腰～臀部痛
歩行障害

患者さんに優しい脊椎内視鏡手術治療「低侵襲手術」

傷が小さく身体に負担の少ない内視鏡手術を積極的に取り入れております。

- ❑ 術後の痛みが従来手術に比べて極めて少ない
- ❑ 傷が小さく(16mm)目立たない
- ❑ 手術時間は1か所30分ほど！入院期間が短い(例:ヘルニア1泊2日)
- ❑ 手術中、尿道カテーテルの必要がない
- ❑ 術後の回復が早いから、元の生活に早く戻れるなど

患者さんにとって利点が大きく、近年急速に普及している治療が「低侵襲手術」です。



和歌山県立医科大学整形外科にて、1999年から脊椎内視鏡手術治療に特化して取り組み、この20年間で4,400例におよぶ手術を経験いたしました。高齢者社会となった今、寝たきりとならずにできるだけ自分の足で立って歩けるような生活を送れるお手伝いをさせていただきたいと思っております。しびれや神経痛でお困りでしたら、お気軽に診察にお越しください。

センター長 河合 将紀 かわい まさき

略歴

平成5年 和歌山県立医科大学 卒業

学会認定専門医・指定医

日本整形外科学会：脊椎内視鏡下手術・技術認定医

脊椎脊髄病医・運動器リハビリテーション医

日本脊椎脊髄病学会：脊椎脊髄外科指導医

日本専門医機構：整形外科専門医・脊椎脊髄外科専門医

難病指定医・身体障害者福祉法（肢体不自由）指定医

お問合せ 紀和クリニック

☎ 0736-34-1255

【診療日のご案内】

	月	火	水	木	金
午前	手術	不在	—	●	手術
午後	●	在	●	●	●

*変更になる場合があります





血液内科



各種血液疾患に対する正確な診断とエビデンスに基づいた治療

森田 泰慶 医師
近畿大学 医学部 (平成 11 年卒)



このような症状の方はご相談ください

- ▶ 血が止まりにくい
- ▶ 原因不明の貧血が続いている
- ▶ 健康診断で血液の異常を指摘された
- ▶ あざや内出血が出来やすい
- ▶ 顔色が悪くなった
- ▶ 指の爪が上向きに反り返ってきた



白血球、赤血球、血小板といった血液中に存在する細胞の異常、全身の免疫機能に関連するリンパ球の異常を担当します。検査技師による院内での検査体制の為、血液学的検査結果をすぐに説明できると共に、輸血を含めた治療を実施します。診察の結果、必要に応じて適切な医療機関への紹介も行います。近畿大学病院との病診連携の下、入院医療にも対応可能です。

紀和クリニック 血液内科 | 診察 火曜日 午後 (完全予約制)

近畿大学病院と連携して
より患者さん自身に適した医療を提供します

2人に1人
がんになるこの時代



腫瘍内科



癌の治療は、ゲノム情報を基に選択する時代が来ています。また、分子標的薬や免疫チェックポイント阻害薬など、臓器横断的に有効な薬剤も登場してきました。腫瘍内科は診療科の垣根を取り払って他科と連携し、がんの診断・治療を行います。当クリニックでは主に薬による治療を行う患者さんを診療しています。



鈴木 慎一郎 医師

金沢医科大学 医学部 (平成 25 年卒)

紀和クリニック 腫瘍内科 | 診察 木曜日 午前

臓器別のがん治療から、遺伝子変異に合わせたがん治療へ

和歌山県立医科大学に形成外科が開設され約五年、私が2020年春より紀和クリニックで非常勤医として診療を開始し約半年が過ぎましたが、県内ではまだまだ馴染みが薄く、形成外科がどのような疾患を診療対象としているのか分からない患者さんも多いようです。全国では三千人程度の形成外科専門医がいますが、圏内にはまだ十人程度しかおらず、残念ながら和歌山は形成外科領域の過疎地といっても過言ではありません。

形成外科では、身体に生じた欠損や変形などに対して、形態的にも機能的にも本来あるべき姿に再建修復し、また整容的によりきれいにすることによって「生活の質」の向上を目指しています。頭の前から足の先まで、表面的ではありますが、全身を対象としています。お子様からご高齢の方まで幅広い年齢の方を対象に診療しています。



写真：一般社団法人 日本形成外科学会ホームページから転載

形成外科は キズ(創傷)、キズあとを治す プロフェッショナル

具体的には、皮膚腫瘍、傷跡修正(醜状痕、瘢痕拘縮、肥厚性瘢痕、ケロイド)、眼瞼下垂、眼瞼内反(さかまつげ)、腋臭症、耳垂裂、陥入爪など局所麻酔で治療可能なものは当クリニックで手術加療を行っております。それ以外に、熱傷、先天異常(口唇口蓋裂、小耳症、埋没耳、折れ耳、多合指症など)、顔の骨折、顔のけが、顎変形症、悪性腫瘍切除後の再建(乳房再建、頭頸部再建など)、褥瘡、難治性潰瘍、リンパ浮腫、顔面神経麻痺などの治療を行っています。全身麻酔や入院が必要な疾患に関しては、院内他科の先生方にご協力頂く、あるいは和歌山県立医科大学附属病院と連携をとりながら治療を行っております。

また、当クリニックでは保険診療で治療可能な疾患のみ対応しておりますが、美容外科も形成外科の一分野とされており、適切な施術をすれば患者さんの生活の質を向上しうる分野であると思えますが、残念なことに県内においても美容外科施設に伴う健康被害が多発しております。そのようなトラブルの窓口として十月より和歌山県立医科大学附属病院に美容後遺症外来を新規開設しておりますので、お問い合わせ頂ければと思います。

【和歌山県立医科大学附属病院 美容後遺症相談外来】
電話予約センター 073(441)0489



一人でも多くの患者さんの生活の質を向上できるよう、全力を尽くしますので、気軽にご相談頂けると幸いです。宜しくお願いいたします。

坂田 康裕 医師

診療時間	月	火	水	木	金	土	日
9:00~11:30	坂田					上野	

*第3土曜日のみ



居心地のいい場所

当院協力施設



ゆったり・・・
まったり・・・



介護老人保健施設

メディケアはしもと



介護老人保健施設メディケアはしもとは、2001年4月に紀和病院のすぐ近くで業務を開始しました。「人ひとりを大切に・・・」をスタッフ全員の理念として、リハビリテーションや看護などのケア、介護サービスを提供し、利用者様一人ひとりの尊厳を尊重し、質の高い生活の継続を支援しています。



〒648-0086
橋本市神野々877番地の1
TEL 0736-39-1133
FAX 0736-39-1155

医療安全推進週間

「医療安全推進週間」は、患者さんの安全を守るため、全ての医療関係者が協働して医療安全に取り組むことを目的として、厚生労働省が位置付けた期間です。

今年度の「医療安全推進週間」は11月22日(日)～11月28日(土)でした。

この機会に、安全で安心な医療の提供についてみんなで考え直してみませんか？

私たち医療者の意識向上だけでなく、患者さんにも、医療安全についての理解や認識を深めていただけたらと考えています。

患者さんと職員はお互いが大切な安全パートナー



今年度は全職員が医療安全に関する認識を再確認するため、日頃自部署で取り組んでいることをポスターとして作成し、当院玄関に掲示しました。

今後も患者さんに安心・安全な医療が提供できるよう努めていきます。

FMはしもと
81.6 MHz

「紀和病院のきわめびと」



毎週水曜日
午後16:30～



「紀和病院のきわめびと」として、地域のみなさんへ旬な医療の話題などを通して、私たち南労会の想いをお届けしています！

12月

- 緩和ケア医になるまでの診療について、「緩和ケア」の医師になったきっかけ、これからの緩和ケア病棟での診療目標など。
- 社会福祉士とはどのような仕事なのか。今までにあった相談などのエピソードを交えつつお届けしました。



疼痛緩和内科
曾和 晃正 医師



医療福祉相談室/地域連携室
室長 結城 賢輝

11月



肝炎コーディネーター
看護師 樋口 祐美



緩和ケア認定看護師
辻本 芳子



医事課
課長 林 剛司

- 肝炎ウイルス検査の重要性、コーディネーターの役割について。
- 緩和ケアとはどのようなケアなのか、当院の緩和ケアチームについて。
- 受付で行っている業務内容や新型コロナウイルス感染症対策で行っている対応について。

1月



ホームヘルプ紀和
管理者 古井 美智枝



春林館
館長 福井 義和



リハビリテーション部
室長 西田 裕希

- 株式会社バイカル「春林館」「ホームヘルプ紀和」「居宅介護支援事業所ばいかる」の利用の仕方、役割、サービス内容について。
- 新規開設 YouTube チャンネルのご紹介をしました。

「紀和病院のきわめびと」番組情報

放送日 毎週水曜日 16:30～16:45

周波数 81.6MHz



地域連携室便り

医療法人 岡田整形外科



院長 岡田 正道 先生



まずは自己紹介をさせていただきます。学童期を地元で過ごし平成6年に近畿大学医学部を卒業し、大阪赤十字病院麻酔科や近畿大学救命救急センターなどで研修後、大学院に進学、卒業後大学の人事でいくつかの病院を異動し最終大阪堺市のベルランド総合病院から橋本市に戻ってきました。

私は平成23年から岡田整形外科を父の後を継ぐ形で整形外科専門医、日本整形外科スポーツ医として約35名のスタッフとともに日々診療に当たっています。当院は今でも有床診療所の形態を維持しており一般病床、療養病床、介護病床合わせて19床の入院可能病床を有し、またリハビリを充実させるべく外来のみならず通所リハビリ、通院困難な患者さまのニーズに応えるべく訪問リハビリも継続しています。

平素から紀和病院の整形外科、放射線科の先生方、スタッフには大変お世話になっています。令和となり最近では地域医療の強化のもと病院、医院との連携もより重要な時代となってきました。まさに地域の架け橋が必要な時代となりました。今後ともよろしく願いいたします。



さて世の中はコロナ禍で昨年からガラリと生活が変化してしまい歴史上に残る世界同時災害禍の中にあつて素直にめでたく新年を迎えることが困難な状況です。誰が昨今の状況を予測したでしょうか？連日報道され政治にもメディアにも振り回される日々ですがまだまだ分からないことも多いウイルスです。私は休日はストレス発散のため子供たちとサッカーをしたりすることもあります。周りを見渡すと自粛を余儀なくされることが多くまたそれが長期にわたることで不自由、不平等を感じる人も増加しているようです。敵はウイルスでありこういう時は人類が打ち勝つために行動変容や強いリーダーシップも重要と考えますがアサーティブコミュニケーション(自分の意見を飲み込むことで我慢をしたり、一方的に自分の主張を押し通したりせず相手に尊重しながら自分の気持ちを伝える)ことが最重要かなと思います。お互いの着地点を見つけることで多くの議論の場においても役に立つと考えます。早く安全なワクチン接種が可能となり感染が収束に向かうことを願います。

*本文は院長 岡田 正道 先生よりご寄稿いただきました。



医療法人 岡田整形外科

和歌山県橋本市市脇 1-45-2 TEL 0736-32-8080

みどりクリニック

新任医師のご紹介

紀和クリニック

川邊 圭一 (かわべ けいいち) 医師

【略歴】金沢大学医学部(昭和 62 年卒)



長らく、ホスピスに勤務し、ホスピスケア、緩和ケアに従事しておりました。その後、療養型病院にて高齢者のお世話をしておりました。今後は出来るだけ在宅で苦痛なく快適に過ごしていただけるように努めます。
趣味:音楽・ライブ鑑賞、犬の散歩、水泳

山名 正樹 (やまな まさき) 医師

【略歴】近畿大学医学部(平成 24 年卒)



2021 年 1 月から毎週水曜日の外来診療をさせていただくことになりました。脳梗塞やてんかん、パーキンソン病など神経疾患全般を診療させていただきます。
よろしく願いいたします。
趣味:ホラー映画鑑賞、温泉旅行

【脳神経内科】